

## ◎特別支援学校（知的障害）

### 生徒の運動技能を高める学び合い活動を促進する I C T機器の活用 ～体育科（ソフトバレーボール）の授業を通して～

#### 1 教科等名及び学部・学年

- (1) 教科等名 体育科
- (2) 学部・学年 高等部 1 ～ 3 年

#### 2 単元のねらい及び計画

- (1) 単元名 「ソフトバレーボール」

- (2) 単元のねらい

- ・ソフトバレーボールの楽しさを味わいながら積極的に活動に参加する。
- ・チームの作戦を立て、ゲームの仕方を工夫している。
- ・ソフトバレーボールの基本的な技能を身につける。
- ・ソフトバレーボールのルールを理解する。

- (3) 単元計画

| 次<br>(配時) | 主な学習活動                                | 活用する I C T等支援機器名<br>(アプリ名) 等    |
|-----------|---------------------------------------|---------------------------------|
| 一<br>(1)  | ・キャッチボール                              | iPad (カメラ)                      |
| 二<br>(6)  | ・パス練習<br>・サーブ練習<br>・レシーブ練習<br>・スパイク練習 | iPad (「Key note」、「Coach`s eye」) |
| 三<br>(3)  | ・3対3のゲーム<br>・4対4のゲーム                  | iPad (カメラ)                      |

#### 3 授業での活用実践

- (1) 活用のねらい

- ・活動の様子を動画で撮ることで、自分の動きを客観的に見て振り返ったり、技能のポイントを互いに教え合ったりする。

- (2) 生徒の実態

- ・A類型(教科別の指導を主とした教育課程) 15名(男子10名、女子5名)
- ・生徒同士の会話が活発で大変にぎやかな集団である。全体的に体を動かすことを好む生徒が多く、どの活動にも意欲的に参加している。
- ・1学期のフットサルでは、ほとんどの生徒は、動いているボールを見て自身が移動し、ボールをコントロールしていたが、ボールに合わせた動きをすることが苦手な生徒もいた。ほとんどの生徒は自分から積極的にボールにかかわることができる。

(3) ICT等支援機器の活用方法・工夫点

- ・iPadで「Coach's eye」のアプリを活用し、動画を撮影して見本を示しポイントを伝えたり、活動の様子を撮り互いに技能習得のポイントを学び合えるようにした。

動画で動きを振り返っている



生徒が活動の様子を撮影



指導のポイントをアドバイスし合っている



(4) 活用の効果及び課題

- ・体の動きをイメージすることが難しい生徒にとっては、動画を見ることで自身の動きを振り返り、技能習得のポイントを確認することができた。
- ・動画をグループの仲間と見ることで、互いにアドバイスし合う姿が見られた。
- ・生徒同士で撮影し合えることができるようにすることが課題である。

4 改善点

(1) 改善したこと

- ・教師の役割を撮影と指導に分担した。
- ・生徒が撮影する時間を設定した。

(2) 改善の効果

- ・生徒が動画で自分自身の動きを振り返ることができ、運動技能の習得には有効な手だてとなった。
- ・教師の役割を指導と撮影に分担したことで、グループ指導や個別指導を充実させることができた。
- ・生徒同士が互いに自分自身の動きをアドバイスし合うことが増えた。